

取扱説明書 KPC-1/KPC-2

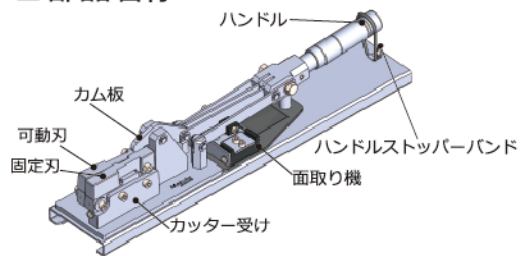
面取り機能付 DINレールカッター



注意

- 刃部や可動部に指などを入れないで下さい。ケガをする恐れがあります。
- 切断した材料が飛散する場合があります。ゴーグル、軍手などの保護具を使用して刃部に近寄らないで下さい。
- 固くて水平な場所でご使用下さい。
- 能力以上のレールを切断したりハンドルに無理な力をかけないで下さい。機械が破損したり思わぬケガにつながります。
- 可動部や取付部品が破損したり緩みのある場合は使用しないで下さい。

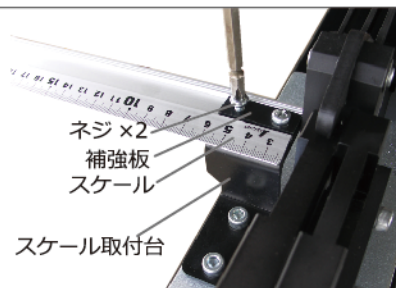
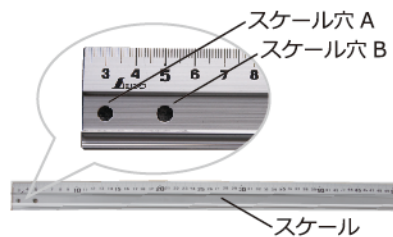
■ 部品名称



切断能力	KPC-1	KPC-2
対応レール	KBR-T1/KBR-T2 KBR-K1/KBR-K2	KBR-W1/KBR-W2 KBR-M1/KBR-M2

- ※アルミレール専用。金属レールは絶対に切断しないでください。
- ※レールの歪、曲り等による刃部に入りにくいレールは切断しないでください。

付属スケール取付け方法



- ①ドライバーでネジ x2 個を外します。
- ②スケール取付台上にスケール、補強板の順に重ね、穴位置を合わせます。
- ③はじめに、スケール穴 A 側ネジを軽く締め、スケールと本体が垂直になるよう調整してください。
- ④次に、スケール穴 B 側ネジ ⇒ スケール穴 A 側ネジの順に最後まで締め付けてください。

切断方法

<p>ハンドルストッパーバンド</p>			
①ハンドルストッパーバンドを外します。	②ハンドルを 90 度以上に持ち上げます。(90 度以上ハンドルを持ち上げるとハンドルから手を離してもハンドルが倒れません。)	③DIN レールを刃穴に挿入してください。	④ハンドルを押し下げてレールを切断してください。

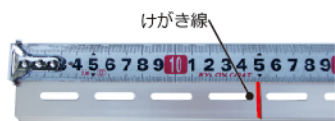
面取り方法

<p>上刃に当てる</p>		<p>ペーパーヤスリ</p>	
①ガイドに沿って DIN レールを上刃に当たる迄挿入する。	②ハンドルを持つもう一方の手で DIN レールを軽く支え、ハンドルを下げて一旦上刃に当たった後、さらにハンドルを押し下げてカットする。	③R カット部のカエリはペーパーヤスリでこすり取る	④面取り完了。

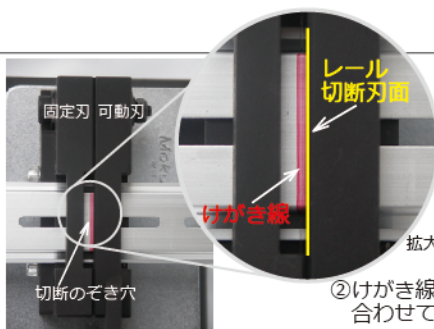
裏面もご覧下さい

切断位置の確認方法

■ のぞき穴を利用した切断

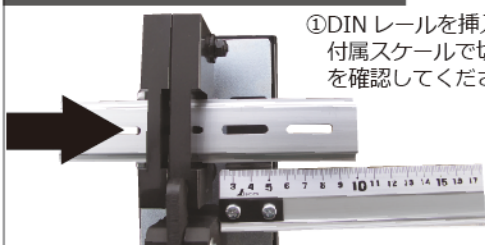


① 切断したいレール長さをコンベックス等で計測し、DIN レール面にけがいてください。



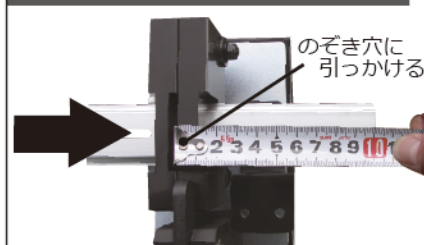
② けがき線をレール切断刃面に合わせてください。

■ 付属スケールを利用した切断



① DIN レールを挿入し、付属スケールで切断寸法を確認してください。

■ コンベックスを利用した切断



付属スケールを取り外した場合の寸法確認に便利です。

① コンベックス等をのぞき穴にひっかけ、DIN レール切断寸法を確認してください。

刃部の取外し 取付け

刃のメンテナンスや刃の取り換えは以下の方法で行ってください。

■ 取外し方法



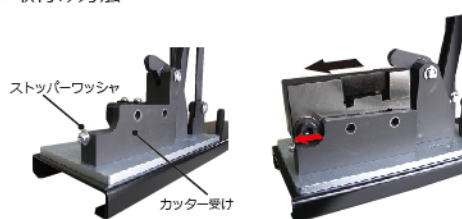
① ハンドルを上げた状態にしてください



刃を取り外した状態

② M6 ネジ 2 箇所を六角レンチでゆるめ取り外すことで、刃部と本体を分離できます。

■ 取付け方法



③ ハンドルを上げた状態で替刃をカッター受けに乗せ、ストッパーワッシャに当ててください



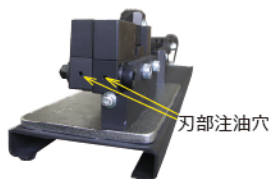
④ ③の状態ではハンドルを軽く押し下げるとカッター受けと替刃の M6 取付穴位置が合います。



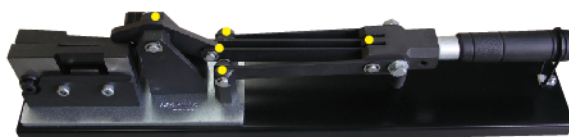
メンテナンス方法

■ 注油

ご使用前に注油を行ってください。
注油不足になると切断が硬くなったり、切断出来なくなる可能性があります。



刃部注油穴



ご使用時は刃部注油穴と ● 部に CRC 等の潤滑油を吹付けてください。

■ 刃部メンテナンス



ご使用していくと、切れ味が悪くなったり、バリが大きくなったりすることがあります。刃部を本体から取り外した後、固定刃と可動刃を上下にずらすと、写真の状態になります。固定刃、可動刃が擦れ合う刃面を油砥石（推奨品：株式会社大和製砥所 OIL STONE 細め）でこすり、こびりついたアルミ粉や汚れを落として下さい。

⚠ 刃は分解しないで下さい。
分解されると切断が出来なくなる可能性があります。

■ ビスの緩みの確認



ご使用前に必ずビスの緩み無いかご確認ください。
緩みがあると切断できなくなります。また、破損の原因になります。

ご使用していくと、土台裏側の ● 部のビスが緩む可能性があります。ビスが緩みますと可動アーム部やカム部とそれらを支持する土台部に負担が掛かり故障の原因になります。